

学び合うことで学びを深める子どもの育成

糸魚川市立浦本小学校

1 学校重点目標

当校では、平成25年度の学校重点目標を「心豊かにかかわりあって学びを高める子」とした。子どもの学力向上のために、指導する教師の指導力を向上させるとともに、学級の子ども同士の良好な人間関係の構築を目指して取組を行う。

当校は今年度、全校児童が25名、全ての学級が複式学級となる小規模校である。少人数集団における子どもたちのかかわりは、必然的に頻度が多くなり一見、子ども同士が深くかかわり合っているように見える。しかし実際は、幼少期からの変化の少ない人間関係の中で、意見を言う子どもと聞く子どもが固定化し、子ども同士が意見を練り上げ、学びを深めていくことは難しい。

そこで、「心豊かなかかわりあい」のできる子どもの育成を目指す。当校では「心豊か」とは相手意識をもつことであると捉える。相手意識をもつことは、友達の気持ちや考えに目を向けることである。これまでに築いてきた人間関係とは違った視点から友達を見直し、互いの良さや得意なことを認め、苦手な部分を補完し合えるようなかかわり合いができる子どもを育てたい。

「心豊かにかかわりあえる」子どもたちが、授業を中心とした様々な活動の中で、互いを高め合っていく姿を期待している。

2 校内研究

(1) 研究主題

互いにかかわりあい、学びを深める子どもの育成

学校重点目標を受け、研究主題を設定した。「互いにかかわりあい」は、前述の通り、相手意識をもったかかわりあいによって、子ども同士が認め合い、考えを練り上げられるような人間関係の構築を目指す。「学びを深める子ども」は、個人の学びと集団の学びが相互に関わりながら、高まっていく姿を目指す。個人の学びが高まることで、集団での練り上げの際に多様な意見や、高次の考えが出されることになる。これにより、集団としての学びも高まり、個人の学びに還元されていく。この関わりがスパイラル状に繰り返されることによって、学級としての学びが高まっていく。この姿を「学びが深まる」と捉え、学ぶ集団をつくり上げたい。

(2) 研究主題設定の理由

当校の児童は、明るく素直である。少人数の学校であるため一人ひとりに活躍の場があり、生き生きと活動をしている。昨年度までの研修の成果として、グループでの話し合いの中で、考えを素直に話せる子どもや、分からないことを「分からない」と言える子どもが増加していることが挙げられる。これらは、『学び合い』*算数や、複式学級での間接指導の際に顕著に見られる。

しかし、当校には学習面で個別に支援を要する児童が多く在籍し、個人の学力差が大きいことが問題として挙げられる。授業で子ども同士がかかわる場面を設定しても、学力差が大きいために、互いの考えを聞き合い、練り上げることは難しい。

さらに複式学級の授業には、間接指導の時間が生まれる。間接指導の際には、教師の与えた課題に対して子どもたちが個の力と集団の力を駆使して解決に向かって学習を進める。授業の半分を占める間接指導の時間に、どれだけ子どもたちが主体的に取り組めるかによって、学習の理解度は大きく変化する。

ここで大切なのは、子どもたちが自分たちで問題を解決するためのかかわり合いの質を向上させることであると考えた。

※『学び合い』…上越教育大学、西川純教授が提唱する学習の形態。「一人も見捨てない」を合い言葉に、教師が与えた課題を子ども同士が教え合うことによって、時間内に全員が解決することを目指すもの。当校では、月曜日2限を全校『学び合い』算数の時間とし、全校で学習に取り組んでいる。

(3) 研究の内容

互いにかかわることで学びを深める姿に迫るためには、学力や学年のギャップを埋めたり利用したりする方策が必要である。そこで、授業の中での子どもたちのかかわらせ方に重点を置き、授業改善を進める。

①『学び合い』を取り入れた授業実践

- ・上越教育大学西川教授の学校支援チームとともに、全校算数での『学び合い』の実践
- ・定期的に「説明タイム」を取り入れた『学び合い』の実践を進める

○『学び合い』の授業実践を行うことで、必然的に子どもたちのかかわりが生まれる。特にかかわらせ方に重点を置くことから、ただ、課題を達成するだけでなく、学んだことや、気付いたことを他者に伝える活動を取り入れる。これにより相手意識をもつことになり、学習したことをより分かりやすくまとめ、友達や教師が聞いて納得できるような説明をする子どもの姿を期待する。

②複式学級での授業改善

- ・『学び合い』を生かした間接指導の工夫
- ・指示・問題の視覚化を通した、課題が見える授業づくり

○『学び合い』の実践を通して、子ども同士が積極的にかかわりあう姿勢、学び合う集団を育てる。学級での授業の中でも、子ども同士がかかわりあい、話し合ったり練り上げたりする場面を、効果的に設定し、学力の向上を図る。

○複式学級の授業では、間接指導の時間があり、教師の出した課題に子どもたちだけで取り組む。この時間に、子どもが主体的に学習に向かうことは、学力向上に欠かせないことである。間接指導の際の課題の出し方について工夫をすることが必要である。

○子どもたちの学力差が大きいことから、どの子にもより分かりやすく視覚的に捉えることのできる構造的な板書を心掛ける。このために、職員研修で指導案と板書計画とを関連付けて相互的に検討する機会を設定する。

③学校支援カウンセラーの活用

- ・カウンセラーを交えた児童理解のための研修会の実施（年間4回）

○毎週の児童理解研修と合わせて、気になる子どもの事例を中心に研修する。専門的な視点からの指導を受け、どの子にも分かる授業づくりに生かす。

④家庭・中学校と連携した家庭学習の取組

- ・中学校区共通の家庭学習強調週間の実施（年間3回）

○「浦本小家庭学習ノート」を作成し、学習の時間・内容・目標などを明確にした上で家庭学習に取り組ませる。毎日、保護者からのチェックを受け、家庭と学校で意識を統一して指導ができるようにする。

3 学習指導改善調査の結果分析から

学習指導改善調査の結果を分析したところ、以下のような実態が明らかになった。

国語部会

○調査結果から、良い傾向が見られる点

- ・資料から必要な情報を選び出すことができる。
- ・適切に段落を設けて、はじめ・中・終わりのまとまりで文章が書ける。(高学年)

▲調査結果から、課題としてあげられる点

- ・決められた文章量を書くことができない子どもが多い。
- ・決められた形式(段落など)で、書けない子どもが多い。(4年)
- ・資料から選んだ情報を基に、自らの意見を書くことを苦手に行っている子どもがいる。(6年)

□2学期(9月)以降の指導における改善策

- ・文章を書く前に、構成メモを作る活動を取り入れる。
- ・学年によって、推敲のパターン(段階)を示して、文章を書いた際にお互いに(自分の)チェックし合う活動を取り入れる。

算数部会

○調査結果から、良い傾向が見られる点

- ・問題に粘り強く取り組もうとする意思が感じられる。

▲調査結果から、課題としてあげられる点

- ・接続語を適切に用いて、自分の考えを筋道立てて説明することができない。
(「まず・次に・だから」を使ってなどの記述があれば多くの子どもが書ける [4年])
- ・算数的用語(直線アから・・・)などを使って、説明することができない。
- ・いくつかの情報がある時に、必要なものだけを選んで解答することができない。

□2学期(9月)以降の指導における改善策

- ・計算の手順や、式の意味を説明する活動を充実させる。

まずは、「まず・次に・だから…」などの話形を示した上で話す活動から始める。これを積み重ねることで話形がなくても、筋道立てて説明する活動に移行していく。

4 授業改善の実際

第1・2学年 国語科学習指導案

平成25年度11月25日(水)第4校時

指導者 助教諭 河野 大樹

【第1学年】

1 単元名(題材名) 「まの いい りょうし」

2 本時の学習

(1) ねらい 【1年生】

読み聞かせを聞きながら、登場人物の行動を中心に、話の大体をとらえ、感想をもつことができる。

(2) 展開

[第1学年] (本時1/1時)

【第2学年】

1 単元名(題材名) 「かん字の広場」

2 本時の学習

(1) ねらい 【2年生】

絵に書かれた数を表す言葉を使って算数の問題となる話をつくることができる。

(2) 展開

[第2学年] (本時1/2時)

□指導上の留意点	T:教師の働きかけ C:予想される子どもの反応	直間 時間		T:教師の働きかけ C:予想される子どもの反応	□指導上の留意点
<input type="checkbox"/> 学習内容を黒板に書く。 <input type="checkbox"/> CDは複数回流す。 ≪聞き方≫ ・どの場面絵の話をしているか。 ・数や人物の気持ちを考える。 ・わからない言葉はないか。 <input type="checkbox"/> 黒板に話の内容を書き入れる。 <input type="checkbox"/> 状況によりCDを流す。 <input type="checkbox"/> 場面絵ごとに話の内容を確認する。 <input type="checkbox"/> 様々な発表をうながす。 <input type="checkbox"/> 言葉の意味を黒板に書く。 <input type="checkbox"/> ワークシートを準備する。 <input type="checkbox"/> 発表方法を確認する。	T:お話を聞き、感想文を書いて発表しましょう。 T:この4つの場面をよく見て、お話を聞きましょう。 C:今はこの絵の話をしている。 T:場面絵ごとにお話の内容を黒板に書いてみましょう。 C:たった一発でかもを何羽も打ち抜いた。 C:山芋が25本もあったんだ。 T:どんな話だったか確認しましょう。 C:百のうち一つぐらいしか本当のことを言わない。だから、百一つあんっていうんだ。 T:「かかさ」「やぶ」の意味はわかりますか。 C:わからない。あと、「きもをつぶす」もわからない。 T:話の内容や場面の様子がわかりましたね。最後に感想を書きましょう。 C:百一つあんは、一発しか打たないのに、たくさんの獲物を獲ることができてすごかったです。	一斉 ⑤	直接 ⑤ 間接 ⑤	T:絵の中の漢字や数字を使って、算数の問題を作ろう。 T:絵をよく見て、どんな人や動物がいますか。どんなことをしていますか。 C:王様が馬に引っ張られているね。 C:馬は2頭いるね。 T:絵や数字を使って、どんな算数の問題ができるかな。 C:貝殻5枚と大根8本を足すといくつになるか。 T:色々な問題ができそうだね。算数の問題を作りましょう。 C:王様の家来とお店の人は、合わせて何人ですか。 C:猫とランプで問題はできないかな。 T:それでは、自分で作った問題を友達同士で出し合ひましょう。 C:王様一人を6人で引っ張っています。合計で何人でしょうか。 T:今回は、絵の言葉を使って、物語を作りましょう。	<input type="checkbox"/> 学習内容を黒板に書き、本時の学習内容を明確にする。 <input type="checkbox"/> 気付いたことをノートに書く。 <input type="checkbox"/> 必要に応じ、問題を例示する。 <input type="checkbox"/> 取り組む内容と時刻を黒板に明示する。 <input type="checkbox"/> 算数の問題になっているか個別に支援する。 <input type="checkbox"/> 問題の出し方と解き方を確認する。 <input type="checkbox"/> 最後に、感想をノートに書く
		間接 ⑩	直接 ⑩		
		直接 ⑮	間接 ⑮		
		直接 間接 ⑩			

(3) 評価

(第1学年) 登場人物や場面の様子を想像し、話の大体をとらえ、感想が書けたか。

(第2学年) 絵に書かれた数を表す言葉を使って、算数の問題の話しを作ることができた。

(4) 授業改善の視点

<1年生>

- ・資料や文章の情報を整理して、自分の考えを書くことができる力を育成するために、低学年段階から、文章を根拠にして感想を書く活動を計画的に進める。根拠を明らかにするために、文章に加えて絵図を用いた板書を作り、視覚的に捉えられるようにする。
- ・物語を聞かせる際には、視点をはっきりさせた。注目した場面・物語で扱われる数字・人物の気持ちを意識させながら聞いた。

<2年生>

- ・絵に描かれていることを基に、立式をする算数的活動を含んだ国語科の授業である。教科横断的な内容で、それぞれの教科で学習したことを活用する場面である。
- ・算数の問題を作るための条件（始めの状況・変化した状況・問い）を明確にし、筋道立った文章を書けるようにする。さらに作った問題を友達に出題することで、互いの文章をチェックし合う活動を取り入れた。

(5) 成果 (○) と課題 (●)

<1年生>

- 全ての子どもが、文章の感想を書くことができた。場面絵と関連させた構造的な板書を心掛けたことによって、場面ごとに文章を振り返り感想を書く姿が見られた。



授業時の板書 (1年生)

- 物語を聞く際に視点をはっきりさせたことが有効であった。「ただ、なんとなく」でなく、文章を根拠に感想を書くことができた。

- 黒板に感想を書く際に、消したり悩んだりしている子どもがいた。何を悩んでいるのかを共有し、話し合う活動を設けることで、一人ひとりの考えをさらに深めることができたと思う。

<2年生>

- 全ての子どもが、問題を作り友達に出題することができた。絵に描かれていることを問題にするための条件を明確にしたことが全ての子どもにとって、安心して活動できる支援となった。

- 友達に出題する場面を設定したが、出題・解答のみのかかわりに留まってしまった。問題文を聞く視点を明確にして感想を話したり、自分が作った問題と比べたりする活動を取り入れるなど、互いの文章を深く読み取る必要があった。

第3・4学年 算数科学習指導案

平成25年1月25日(水) 第4校時

指導者 教諭 風間 寛之

1 単元名 「小数」

2 本時の学習

(1) ねらい

○第3学年

様々な小数を組み合わせて計算をする活動を通して、小数第1位の加法の計算の仕方の仕方を理解する。

○第4学年

様々な小数を組み合わせて計算をする活動を通して、小数第2位の加法の計算が小数第1位のそれと同じことに気付き、計算の決まりを理解する。

(2) 展開

[第3学年] (本時6/9時)

[第4学年] (本時5/8時)

□指導上の留意点	T: 教師の働きかけ C: 予想される子どもの反応	直間 時間	T: 教師の働きかけ C: 予想される子どもの反応	□指導上の留意点
□小数を書いた画用紙を用意する	<p>小数を組み合わせてたし算をして、小数のたし算のルールを考えよう</p>	一斉⑤	<p>2.25 2.7 8.66 1.34 4.55</p>	□小数を書いた画用紙を用意する
□本時の目標「筆算をもとに、考えたルールについて説明できる。」を板書する				<p>0.2 7.2 2.4 5 2.8</p>
□ワークシートを用意する。	T: 整数のたし算をもとに考えるように話す。 C: 十の位は十の位でたし算するよ。 C: 小数も、一の位をそろえればいいんじゃないかな。 C: 小数も整数と同じようにくりあがるのかな。 C: このたし算は答えが、3.0になるよ。 T: 考えたルールを、互いに伝え合うよう指示する。 C: 整数と同じように位をそろえないと答えがおかしいよ。 C: 6.0は0と小数点を消していいんだね。 T: ルールをノートにまとめましょう C: 位を合わせる C: 最後の0と小数点は消す	直接⑤	C: 3年生の時に、位をそろえることを学習したぞ。 C: 小数点の位置をそろえればいいんだよね。 C: 2.25と2.7をたすと、空とところができるよ。0をいれればいいのかな。 C: 一番小さい位が0の時は、0を消してもいいんだな。 T: 考えたルールを、互いに伝え合うよう指示する。 C: 小数第1位の計算と同じで小数点の位置をそろえるんだよ C: 最後の0は意味がないから、こうやって消すんだよ。 T: ルールをノートにまとめましょう C: 位を合わせる C: 最後の0と小数点は消す	□ワークシートを用意する。
□間違えている計算を取り上げる。	C: 整数と同じように位をそろえないと答えがおかしいよ。	一斉⑩	C: 空いている所は0で考える	□「2.25+2.7の計算から～のことが分かります。」のように説明させる。
□「0.2+2.8の計算から～のことが分かります。」のように説明させる。	C: 6.0は0と小数点を消していいんだね。 T: ルールをノートにまとめましょう C: 位を合わせる C: 最後の0と小数点は消す	一斉⑩	T: 3年生のルールと4年生のルールを比べてみましょう C: 小数の位は関係ないんだね	□子ども同士で考えを伝え合う場面を設ける。
□必要に応じてワークシートを活用させる。	C: 整数と同じように繰上がりがある	一斉⑩		□必要に応じてワークシートを活用させる。
□本時のまとめを板書し、ノートに記述させる。	T: 3年生のルールと4年生のルールを比べてみましょう C: ほとんど同じ!	一斉⑤		□本時のまとめを板書し、ノートに記述させる。

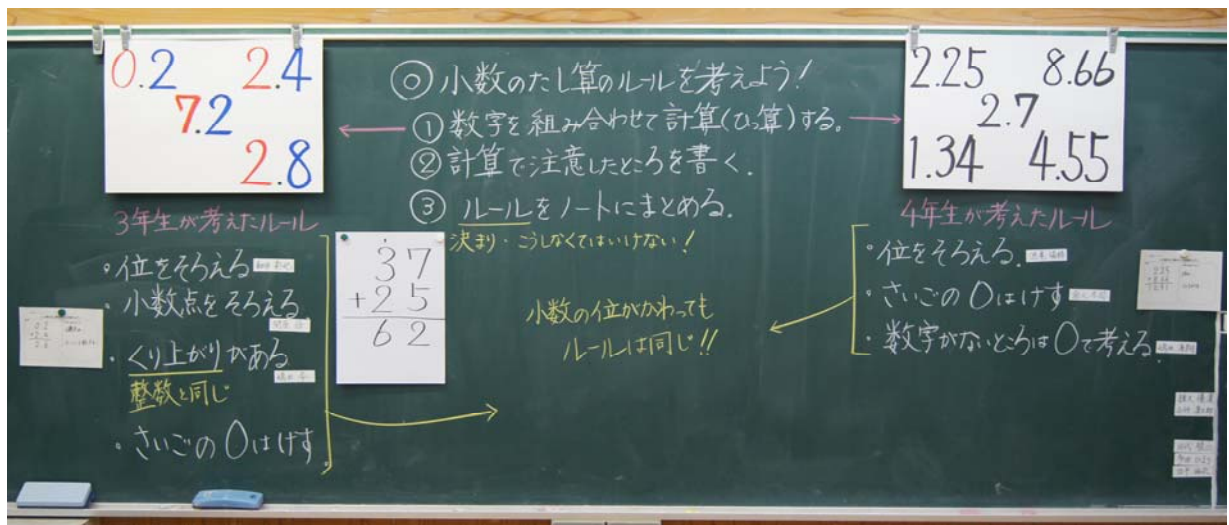
(3) 評価

(第3学年) 小数第1位の加法の計算の仕方を理解しているか。

(第4学年) 小数第2位の加法の計算が小数第1位のそれと同じことに気付き計算の仕方を理解しているか。

(4) 授業改善の視点

- ・小数のたし算の問題設定を子どもに委ね、選択させることによって、学習への意欲を喚起するとともに一人ひとりの学力に合った「小数のたし算のルール」について考えさせる。
- ・学習の時期を調整し、異学年で同じ教材について考えさせる。これによって、4年生は既習事項を3年生に分かりやすく伝えること、3年生は新しい考え方を同学年の友達同士で話し合ったり、4年生から教えてもらったりすることができ、かかわりを通してそれぞれの学年の学習内容を深めることにつながる。
- ・ワークシートと説明を関連付けて行う。ワークシートに表した自分の考えを基に、友達に説明する場面を設定する。
- ・板書計画を作成し、子どもの思考に沿った板書を心掛けた。課題とまとめが視覚的に捉えやすいことと色分けをすることで、小数の位に目が行くように支援する。



作成した板書計画

(5) 成果 (○) と課題 (●)

- 全ての子どもが授業に参加したと言える。自分で小数の問題を作る楽しさによって意欲を喚起できたことと、小数の位分けを色の情報で示したことにより、全ての子どもが位の合わせ方に注目し、ルールを一つも考えることができない子どもがいなかった。
- 単元の入替えを行い、小数の学習を異学年で共同して進めたことがかかわりを充実させる上で効果的であった。特に4年生は、既習事項を3年生に説明することで学習の振り返りをスムーズに行うことができ、これをもとに考えを発展させたり、自分たちの学習内容に当てはめたりする姿が見られた。
- ワークシートを活用したことによって、自分が考えたルールを、具体例を挙げて説明する姿が見られた。具体例が挙げられていることによって、友達の意見に対して、自分との相違点を考えながら聞いたり、ルールを教える際にも適した問題を設定して説明したりすることができた。
- 積極的に説明し合い、ルールを確立させていくことができたが、説明の際の話形を徹底することが不十分であった。指示を出す際に言葉で説明するのではなく、話形を示したカードなどを提示することによって、さらに全ての子どもが分かる授業につながったと考えられる。